



世界の**人**びと**の**ための
JICA基金

ニュースレター
2022



世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金」では、市民の方々に寄附を通じて国際協力に参加いただき、その寄附金を財源にNGO/CSOなどが行っている国際協力活動を支援しています。

寄附を通じて皆様の想いを途上国の人びとに届け、平和で豊かな世界の実現に向けてともに貢献していきたいと考えております。



2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) を設定しています。

SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要です。そのために、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること（グローバル・パートナーシップ）も求められています。

JICAはSDGsの達成に貢献すべく、さまざまなステークホルダーとの連携を強化し活動に取り組んでいます。その一つが「世界の人びとのためのJICA基金」（JICA基金）です。

2021年度も、多くの方々や団体の皆様の寄附により、貧困や飢餓に苦しむ人びとの生活向上、教育の機会の提供等において、13件の活動を支援することができました。皆さまの温かい想いに深く感謝申し上げます。13案件のうち、ニュースレター2022では7件の活動をご紹介します！

2021年度JICA基金活用事業実施団体の活動国

対象国×実施団体名

ケニア×特定非営利活動法人Little Bees International
(2021年度案件)

ラオス×特定非営利活動法人あおぞら(2021年度案件)

ラオス×特定非営利活動法人
Support for Woman's Happiness (2021年度案件)

インドネシア×特定非営利活動法人POMk Project
(2020年度案件)

インド×カディ・プロジェクト
(2020年度案件)

マダガスカル×遠藤 源一郎
(2020年度案件)

ボリビア×特定非営利活動法人日本ボリビア人協会
(2021年度案件)

JICA基金活用事業の紹介

(2020年度採択案件)

団体名／活動国（報告掲載ページ）

事業名/
活動期間

<通常枠>

特定非営利活動法人POMk Project／インドネシア（P4）

インドネシア：大学－小中高等学校間の連携支援を通じた西ヌサトゥンガラ州・ロンボク島での健康教育の拡大

2022年2月－2023年1月

<チャレンジ枠>＊

遠藤 源一郎／マダガスカル（P6）

マダガスカル東部沿岸域農村における地域魅力教材づくり

2021年8月－2022年8月

カディ・プロジェクト／インド（P4）

インド・ビハール州における雇用創出による女性のための糸紡ぎの技術支援・就労支援事業

2022年1月－2022年12月

＊チャレンジ枠は、経験が浅く、実績の少ない個人・団体を対象としております。

(2021年度採択案件)

<通常枠>

特定非営利活動法人Little Bees International／ケニア（P6）

ケニア循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業(2年目)

2022年2月－2023年2月

特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness／ラオス（P5）

ラオス：少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり(2年目)

2022年2月－2023年2月

認定特定非営利活動法人あおぞら／ラオス（P5）

ラオス保健科学大学における新生児蘇生法インストラクターの人材育成プロジェクト

2022年3月－2023年3月

特定非営利活動法人日本ボリビア人協会／ボリビア（P7）

アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出

2022年3月－2023年3月



インド・ビハール州における雇用創出による女性の ための糸紡ぎの技術支援・就労支援事業

対象国: **インド**
団体名: **カディ・プロジェクト**



活動報告

インド最貧困といわれるビハール州の村を中心とした「手つむぎ手織り(カディ)」による手仕事の普及で、村々に雇用を生み出し、継続的な自立や生活の安定を目指した活動をしています。活動地のブッダガヤ・ハティヤール村では、コロナ感染のケースはほぼなく、村の人たちは、糸紡ぎの訓練の実施を首を長くして待っていました。2022年8月から同村のNPOの施設の一部を借り、訓練を始めました。訓練施設には18台の糸車を導入し、できるだけ多くの女性に糸車を触れるよう8月は希望者をどんどん受け入れるところからスタートしました。9月は、就業の意思が強い女性約18名に絞り、集中的に訓練を行いました。最長6ヶ月の訓練期間が設けられていますが、11月の時点ですでに12名の女性が技術習得いたしました。



糸紡ぎの訓練に参加するハティヤール村の女性たち

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

ハティヤール村の多くの女性は、掃除・洗濯・育児・畑仕事など多くの家事をこなしていますが現金収入を得る機会がほとんどありませんでした。このプロジェクトを通して、女性が安心・安全に働ける就業環境を整えることで、経済的にも精神的にも自立し、さらには子どもたちへの教育につなげられるような力強い仕組みにつながっていくことを目指しています。JICA基金によって私どもの小さな活動に背中を押していただきました。また資金だけでなく活動全体へのコンサルテーションをしていただけたことも大きな励みとなりました。深く感謝を申し上げるとともに、今後とも活動を応援していただけますようお願い申し上げます。



インドネシア:大学ー小中高等学校間の連携支援を通じた 西ヌサトゥンガラ州・ロンボク島での健康教育の拡大

対象国: **インドネシア**
団体名: **特定非営利活動法人POMk Project**



活動報告

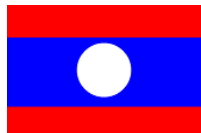
リゾート地として有名なバリ島の隣に、ロンボク島があります。ここはインドネシアの中でも所得が低く、高い乳幼児死亡率に苦しんでいます。また、2018年にはマグニチュード7以上の地震を3回経験するなど、住民の健康支援が必要とされる地域です。私たちは福島県発のNPO法人として、楽しく体のことを学んでもらう健康教育のノウハウを当地に伝える活動をしています。今年はこれまで一緒にやってきた小中学校の先生たちを核として、周辺の3つの学校に活動を広げることができました。異なる学校の先生同士の学びあいを目的としており、そこから生まれるアイデアが地域に根ざした活動となるよう、「健康教育コンテスト」の開催を予定しています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

先生たちからは、『どうやったら良い教材が作れるのか、考えるための時間と費用がとれてとても嬉しい』とJICA基金への感謝の声が届いています。私たちの学習会では風船製肺模型や灯油ポンプ製心肺装置など、「身の回りにある品物を使って自分で教材を作って、楽しく体の働きを学ぶ」ことをモットーにしていますが、日本の私たちの想定以上に様々なアイデアのある教材が生み出されていて嬉しい誤算です。子供たちにとって親しみやすい、大学生のお兄さんお姉さんの協力も得て、子供たちがみんな笑顔ながらも学んでいく、そんなところを見られるのが、この活動の原動力です。暖かいご支援ありがとうございます。



おなかの中で、赤ちゃんがいつどうやって育つのか？
男子もしっかり学びます



ラオス保健科学大学における新生児蘇生法インストラクターの人材育成プロジェクト



3 すべての人に
健康と福祉を



対象国: ラオス

団体名: 特定非営利活動法人あおぞら

活動報告

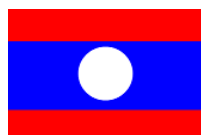
ラオスは、東南アジアの中でも最も新生児死亡率の高い国であり、当団体の主要な支援活動の一つとして、世界の新生児死亡率の減少に対して取り組んでおります。ラオス国内の医師の育成機関であるラオス保健科学大学で、教員向けの新生児蘇生講習会を開催し、基本的な新生児技術蘇生法の定着とともに、ラオス保健科学大学に所属する医師へのインストラクター育成のための支援を行っています。現地の医師に対して、新生児蘇生法講習会を開催できるインストラクターとして育成することを目的としています。自らの手で新生児仮死の状態にある新生児を適切な状況で新生児蘇生法を実施できる医療者が少しずつ増え、一人でも多くの赤ちゃんの命が救われる持続性を重要視した支援活動です。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

日本では当たり前に行われる医療がラオスの現場では受けることができず、尊い命が失われている状況があります。「命を救う」ということは、すぐに結果が出るものではありません。しかしながら、このプロジェクトを通して、ラオスの赤ちゃんを救うための「正しい技術」と「志」を持つ人材を育成し、現地の人の手で、命を救うことができる持続可能な社会を目指し活動して参りました。「赤ちゃんは、その国の未来です。」この言葉は、講師が、講習会の際に参加者に伝える言葉です。この言葉が表すように、私たちの活動がラオスの国の発展に繋がることを祈っています。皆様の温かいご支援のおかげで、ラオスへの未来に繋がる支援ができたこと心より感謝いたします。誠にありがとうございました。



新生児蘇生法のシミュレーショントレーニングをラオスのインストラクター候補の医師たちが行っている様子



ラオス: 少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり(2年目)



対象国: ラオス

団体名: 特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness



活動報告

2017年に当事者とともに開所した障がい作業所ソンパオでは、50名の障がい当事者が所属し職業訓練を受けています。より良い製品づくりのため、SWHはラオスの山岳部に暮らす少数民族と障がい作業所を繋ぎ、製品づくりを指導しています。民族女性たちが織り、染め、刺繍した素材を障がい作業所で製品に活用し、民族の文化保護と障がい雇用の自立を促進しています。最終的には障がい当事者が民族女性たちと自ら連携し製品の企画・製造・販売を行えるブランドに育てていくことを目標としています。年数を重ねるごとに自発性が育ち、広がりを見せています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

引き続きコロナ禍の影響大きく、時期によっては県を跨いでの移動ができないなど、思うように進めることが難しい期間もありました。コロナ禍での活動は本当に大変でしたが、自由に動けない中でどう解決していくかを互いに寄り添いながら努力を重ねることができた期間でもありました。開所当初は作業者を育てることで精一杯だった現場が、少しずつですがこの場を維持していくためにみんなの居場所を守るために、必要なものは何か、全体のマネジメントや目標を想像できるようになってきました。この効果は製品作りの発展にもつながっています。



障がい作業所では、新たにミシンメンバーが増え、村では少数民族女性による新作の染めと刺繍がスタートしました。





ケニア：循環型社会形成を目指したリサイクルバッグの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業（2年目）

対象国：ケニア

団体名：特定非営利活動法人Little Bees International



活動報告

ナイロビでは、極端な貧富の差が拡大し住民の30%以上が最貧困ラインでの生活を余儀なくされています。また環境破壊も進み、市の中心部を流れるナイロビ川の河川敷もゴミで覆われ、環境汚染も深刻化しています。貧困層住民の4割がHIV陽性といわれ、またその内5割近くの女性がシングルマザーの状況にもあり、その子どもたちも4割近くが学校に通えない状況にあります。そうした状況を改善するエンパワーメント活動が、本事業です。ナイロビ市のジーンズ工場から排出されるデニムの余剰生地は耐性も強く、子どもたちのためのリサイクルスクールバッグ・エコバッグを生産・販売しています。生産メンバーは、シングルマザーやHIV陽性の女性たちになります。「Stop Child Labors!」や「Stop DV」といったメッセージをつけることにより、貧困層へのアドボカシー効果も狙います。新型コロナウイルスによる感染症への対策としては、「Wear your Mask」や「Wash your hands」などのバッグも製作しました。

SDG1・5・12の達成を目標にリサイクル促進による循環型社会形成と女性の自立のための収入向上を目指します。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

本事業は、コミュニティの中に憩いの場を提供することにより行き場をうしなっていた女性たちにとって、お互いのストレス解消にもつながる、心配事を率直に共有できる場として、貴重なコミュニケーションのスペースとしても機能しています。作業場はいつもアフリカの女性たちのやさしい笑顔と勤勉な姿に彩られています。コロナや世界的なインフレなど、わたしたちを取り巻くグローバル社会の様相は刻々と姿を変えて行きますが、ここにはいつもと変わらぬお互いに寄り添い合う女性たちの姿、そしてわきあいあいと活動する姿が見られます。

ここまでのご支援に現地のみならず心からの感謝を申し上げます。
アサンテ・サーナ！



製作したアドボカシーリサイクルバッグと一緒に



マダガスカル東部沿岸域農村における地域魅力教材づくり

対象国：マダガスカル

活動者名：遠藤 源一郎



活動報告

マダガスカル東部タンブル新設保護区周辺地域のモデルサイトにおいて、住民や学校の有志が、生き物調査や伝統的な暮らしの聞き取りを行い、地域の魅力を発掘し、地域の魅力マップを作成しました。また、住民が講師になり調査結果やマップを元に地域の魅力発表会を行ないました。地元大学の協力によりラジオ・TVやSNSを通じて外部発信され、エコツーリズムなど今後の活動継続に向けての種まきが行なわれています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

私の住む仙台市沿岸は東日本大震災の津波で大きな被害を受けました。国内外から支援をいただき、今も復興に向けて地域活動をしています。この経験を定年前に勤めていた動物園と交流のあったマダガスカルでの自然保護活動で生かせないかと考え、2人の専門家の協力をいただきました。

新型コロナウイルスの影響で渡航できませんでしたが、現地の協力者のおかげで、何度もオンライン会議や交流を行い、活動することができました。私たちが行ってきた震災復興に向けて地域の魅力を見いだす活動の経験が、マダガスカルでの住民自らが地域の自然や昔の暮らしの魅力を見直すヒントになり、生物多様性保全などの地域活動に繋がっていくものと考えています。

この事業を通じて、私たちがマダガスカルのみなさんから学ぶところが多くありました。今後、エコツーリズムなどを検討してまいります。御支援いただき、誠にありがとうございました。



作成した魅力MAPの発表会で現地活動グループメンバーの記念撮影



アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出

対象国:ボリビア

団体名:特定非営利活動法人日本ボリビア人協会



活動報告

本事業では、①ボリビア貧困コミュニティのアルパカ毛糸の製糸技術を向上させ、質の高い毛糸で作った商品を日本や現地で販売することで、収入を増やし、生活水準を向上させる。②高齢化により就労の機会が減っている在日ボリビア人に編み物の技術を身に着けることで、収入を得るきっかけや生きがいを生む。という2つの柱で取り組んでいます。この事業は昨年度から継続して行っており、編み物教室に参加した生徒たち(在日ボリビア人)は、全員が職に出来るレベルまで編み物の技術を向上させることが出来ました。現在、ボリビアの現地コミュニティの製糸技術を向上させるための研修に向けて準備をしています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

日本から遠く離れたボリビアという国をこのプロジェクトを通して、身近に感じて頂けたら嬉しいです。また、「こんな、プロジェクトがあるんやて」とお友達やお知り合いに伝えていただくことで、このプロジェクトのことをより多くの方々に知って頂けると、それが、ボリビア現地や在日ボリビア人でこの事業に関わっている皆の力になり、一步一步目標に近づけると考えております。皆さんの応援を宜しくお願い致します。



八ヶ岳アルパカ牧場での研修にて①



八ヶ岳アルパカ牧場での研修にて②



編み物教室の様子

JICA基金2021年度 収支報告

2021年度(令和3年度) 寄附実績			2021年度(令和3年度) 寄附金使用実績		
	件数	金額(円)		件数	金額(円)
個人	614	2,267,000	配分事業 (2019年度、2020年度 継続案件12件/2021年 度新規採択案件1件)	13案件*	4,177,976
法人・団体	66	12,222,170	運用経費(2021年度寄附 金収入額の10%以内)	寄附金システム 運営費、その他	805,716
合計	680	14,489,170	次年度繰越		9,505,478
			合計		14,489,170

* 2021年度に活動資金として寄附金をお渡ししたのは13団体。このうち本ニュースレター2022に活動報告を掲載しているのは7団体です。



各実施団体のより詳しい事業内容は、下記サイトの「事業完了報告書」にあります。
ぜひそちらもご覧ください！

JICA寄附サイト：

<https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>



世界の人びとのためのJICA基金 ニュースレター2022
発行：独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル
TEL:0800-100-5931（寄附専用ダイヤル）